

オドリバエ科 Empididae

ver. 2019/02/22



オドリバエは比較的に大きなハエなので、「廊下のむし探検」を始めてすぐに注目して、写真を撮ったり採集したりしていました。まだ、検索を試行錯誤でやっていた頃だったので名前調べもなかなか大変でした。その後、次第に小さな虫に関心が移り、オドリバエは何となくそのままになっていました。この度、手作り図鑑としてまとめようと思ったら、思うような写真や検索結果が残っていないのでいささか驚きました。オドリバエについては「新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ」に詳しく扱われています。また、三枝豊平氏による検索表[1]も発表されています。これほどしっかりとした仕事があるのだったら、もっと頑張っておくべきだったといまさらながら後悔しています。これから詳しく調べていかなければならない仲間です。

MNDによると、オドリバエの成虫は湿った環境にある植物や木の幹、水面などで見出だされ、幼虫は水生から厳密な陸生までさまざまです。オドリバエは基本的に捕獲性で、生きた小昆虫、例えば、群飛しているハエや脱皮したハエなどが餌になっています。そのほかにもクモの巣にかかった死んだ昆虫や水辺の昆虫、蚊、水生のハエなどが餌になります。しかし、あるものは吸蜜性であったり、花粉を食するものもいたりと多様性に富んでいます。この仲間の面白いところは、群飛、狩り、交配の三者が密接に結びついていることです。特に、*Empis*、*Hilara*、*Rhamphomyia*などでは♂が捕まえた昆虫を♀にプレゼントするという習性を持っています。♀はもっぱら蛋白源をこのプレゼントされた餌に頼っているようです。これらの属では♂が光を反射する泡のような風船を作り、この中に餌を入れて♀の注意を惹きつつそれを渡すということです。

ところで、コトバンクによると、オドリバエという名前は交尾のときに多数の個体が集まって群飛する様子を空中舞踊と呼んだことから来ているそうです。英文のWikipediaによると、英語ではオドリバエが尖った口を持つことからdagger fly (daggerは短剣)と呼ばれていて、dance flyという名はHybotidae(セダカオドリバエ科)に当てられているというようなことが書かれていました。

オドリバエ科の検索と特徴

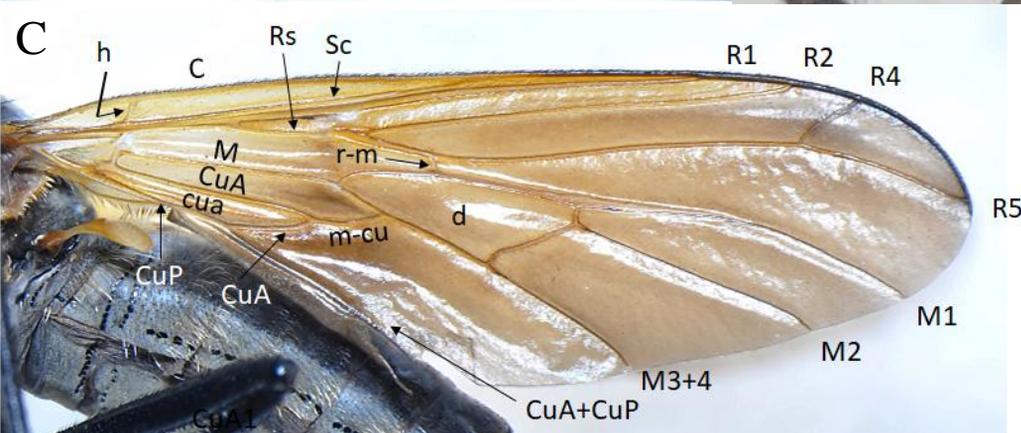
「絵解きで調べる昆虫」(文教出版、2013)の中
の笹川満廣氏の「双翅目昆虫の絵解き検索によ
る分類」によると、オドリバエの科の検索は次の
ような手順で進みます。ただし、②、③、⑥につ
いては「新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ」の検索表を参考
にして加筆しました。

- ①短角亜目
- ②爪間板は刺毛状ないし消失する(溪流性オド
リバエ科では爪間板と側爪板は共に細い葉
状で有毛)
- ③翅のCuA脈が回帰脈になるためcua室は短く、
先端は尖らない
- ④額線・半月板はない
- ⑤翅の中室がある
- ⑥翅のRs脈は肩横脈の近くから分岐

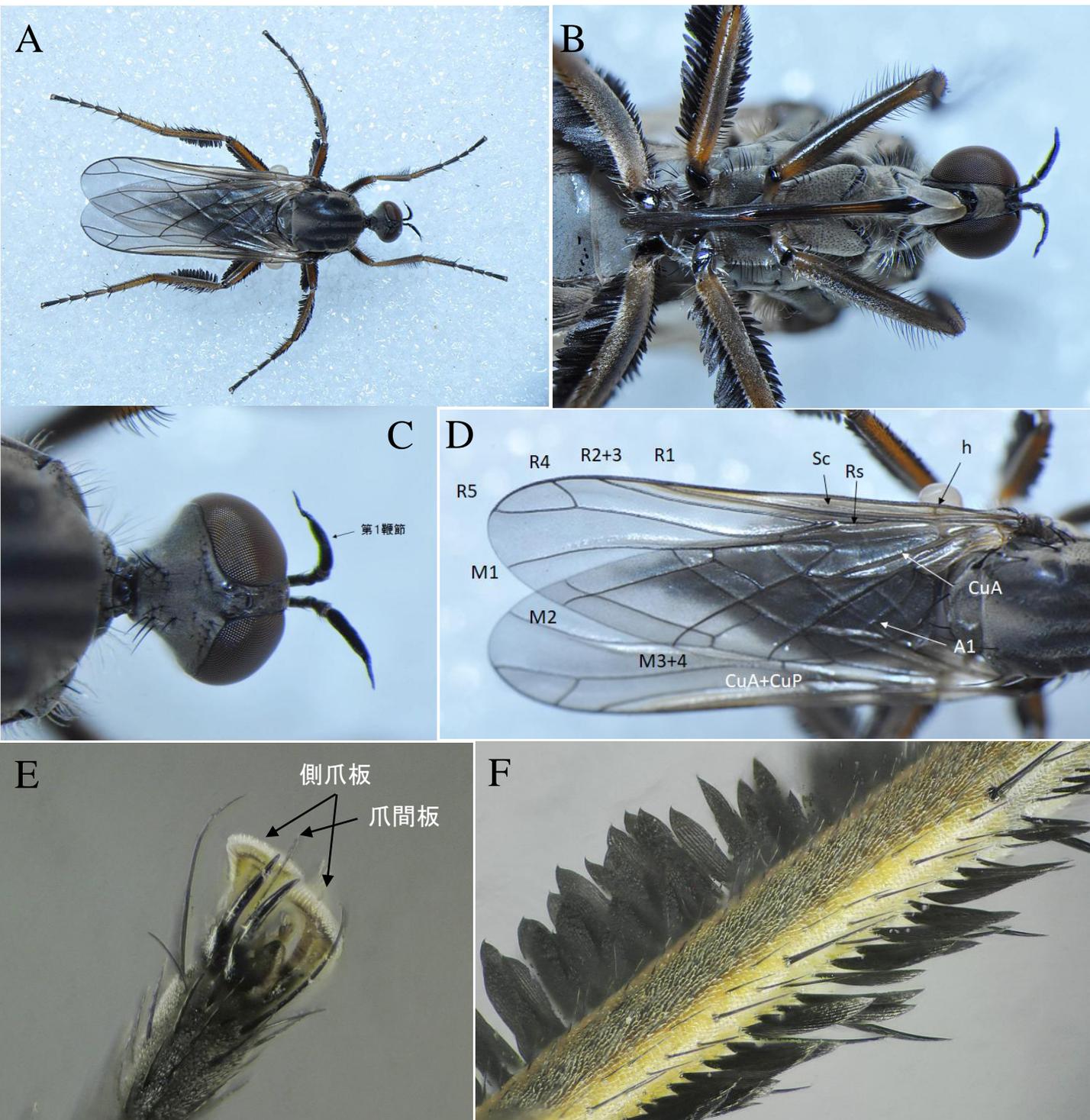
オドリバエ科の属あるいは亜属の検索は非常に
詳しく書かれた絵解き検索表[1]があり、検索には
非常に便利です。後で表に示すようにその検索
表では現在知られている日本産の属のほとんどを
網羅しているので有用です。「日本昆虫目録第8
巻」によると、日本産オドリバエ科は26属211種が
記録されています。ただし、現在分かっている種
は全体の20%ほどで、最終的には1000種を越え
ると推定されています[2]。

下の写真は*Empis*属*Planempis*亜属みと思われ
る個体のA.側面図、B.頭部、C.翅脈を示していま
す。

[1]三枝豊平氏、「双翅目(ハエ目)昆虫の検索システム
に関する研究」、平成6年度科学研究費補助金(一般研
究C(2))研究成果報告書(1995)。(この題目で検索すると
pdfがダウンロードできます)；[2]中村剛之、『日本昆虫
目録 第8巻 双翅目』の出版と日本産双翅目相の解明度
について」、昆虫(ニューシリーズ) 19, 22 (2016)。



ここには*Empis*属*Polyblepharis*亜属のキアシセスジオドリバエ♀と思われる個体の各部の写真の載せました。A. 背面図、B. 腹面図、C. 頭部、D. 翅脈、E. 跗節爪、F. ♀の脚に特有の変形した毛。これらの写真から科と属の検索まではすぐにはできるとおもわれます。



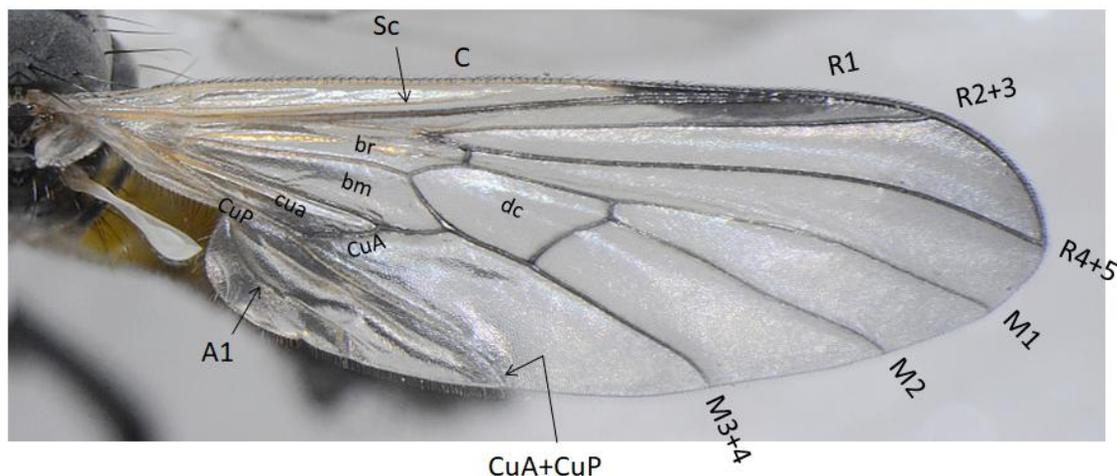
日本産オドリバエ科の亜科、属、亜属

family	subfamilies	genera	subgenera	synonym	Saigusa (1995)	MND (1981)		
Empididae	Oreogetoninae	<i>Oreogeton</i>			○	○		
		<i>Ragas</i>			○	○		
		<i>Iteaphila</i>			○	○		
		<i>Hesperempis</i>			○	○		
	Empidinae	Hilara	<i>Calohilara</i>				○	
			<i>Hilara</i>			○		
			<i>Meroneurula</i>					
			<i>Ochtherohilara</i>			○		
			<i>Pseudoragas</i>					
			<i>Pseudorhamphomyia</i>					
		Empis	<i>Anacrostichus</i>				○	○
			<i>Coptophlebia</i>				○	
			<i>Empis</i>				○	
			<i>Euempis</i>				○	
			<i>Lisempis</i>					
			<i>Planempis</i>				○	
			<i>Polyblepharis</i>				○	
			<i>Xanthempis</i>				○	
		Rhamphomyia	<i>Alpinomyia</i>					○
			<i>Calorhamphomyia</i>					
			<i>Collinaria</i>					
			<i>Ctenempis</i>					
			<i>Dasyrhamphomyia</i>					
			<i>Eorhamphomyia</i>					
			<i>Megacyttarus</i>				○	
			<i>Orientomyia</i>					
			<i>Pararhamphomyia</i>					
			<i>Rhamphomyia</i>					
			<i>Thalassempis</i>					
		Clinocerinae	<i>Clinocera</i>				○	○
			<i>Dolichocephala</i>			= <i>Kowarzia</i> = <i>Lamosoma</i>	○	○
	<i>Hypenella</i>					○		
	<i>Proclinopyga</i>					○	○	
	<i>Rhyacodromia</i>					○		
	<i>Roederiodes</i>					○	○	
	<i>Trichoclinocera</i>					○	○	
	<i>Wiedemannia</i>					○	○	
	<i>Xanthodromia</i>					○		
	Hemerodromiinae	<i>Chelifera</i>				○	○	
		<i>Hemerodromia</i>				○	○	
		<i>Chelipoda</i>				○	○	
Brachystomtinae	<i>Brachystoma</i>				○	○		
	<i>Heleodromia</i>				○	○		
	<i>Trichopeza</i>				○			
Microphorinae	<i>Microphorella</i>				○	○		
	<i>Thalassophorus</i>				○			
	<i>Microphor</i>				○			
	<i>Parathalassius</i>				○	○		

注)このほかにSaigusa (1995)の検索表に載せられていた属は次の通りです: *Kowarzia*=*Dolichocephala*, *Lamosoma*=*Dolichocephala*, *Anthepiscopus*=subfamily unassigned, *Phyllodromia*, *C(Phyllodromia)*近縁)。ただし、”Catalogue of Life”で調べた現在の所属も書き入れておきました。

前頁の表でも分かるように、MND(1981)でも日本産オドリバエ科の属をかなり網羅していて、また、Saigusa(1995)では亜科を飛ばして属の検索表が作られていたので、MNDの検索表のうち、亜科の部分だけを抜き出して亜科の検索表を作ってみました。青字の亜科は今はセダカバエ科に属している亜科を示します。また、()内は原文そのままを示しています。特に、翅脈は下の写真で示すように「大図鑑」方式にしたので、その分、変更が多くなっています。

- ①a dc(dm)室を欠く;R4+5脈かM1+2脈のどちらも明瞭に分岐しない;すべての翅脈は分岐しないで翅縁に達する;cua(cup)室を通常欠くが、もし存在する場合にはbmとbr室よりも短く、CuA+CuP(A1)脈は弱くて微か Tachydromiinae
- ①b dc(dm)室はあるかない;もしdm室がなければ、R4+5脈かM1+2脈、あるいは両方とも分岐するか、cua(cup)室はbm室より長い、前脚は捕獲脚になる ②
- ②a 前脚は捕獲脚で、頭部近くにあり、他の脚からは離れる;前基節ははるかに長くなり、少なくとも他の基節の2倍になる;前腿節は多かれ少なかれ厚くなり、下側に多くの剛毛を生じる Hemerodromiinae
- ②b 前脚は捕獲脚にならない;前基節は短い ③
- ③a 翅の腎葉(anal lobe)は発達しないか、弱く発達するのみ;alular sinusは広く弓側になる;小翅片(alula)を欠く;C脈は翅を一周する;爪間板は通常側爪板状(pulvilliform) ④
- ③b 翅の腎葉は通常よく発達し、alular sinusは角張り、小さな小翅片は通常存在するが、もしそうでなければ、C脈は翅を一周しないか、後基節は小盾板の先端から垂直線を下したときそれより十分に前にあるか、爪間板は刺毛状(setiform)か、痕跡的 ⑤
- ④a cua(cup)室は少なくとも翅長の1/3で、bm室よりやや長い Brachystomatinae
- ④b cua(cup)室は翅長の1/4より小さく、bm室と同じかやや短い Clinocerinae (Microphorinaeを含む)
- ⑤a CuA(CuA2)脈は回帰し、cua(cup)室の下側で合流する;疑わしい場合には、R4+5脈は分岐するか、中胸側背板(laterotergite)に剛毛を生じるか、口肢は長く多くの剛毛か毛を生じる Empidinae (Oreogetoninaeを含む)
- ⑤b CuA(CuA2)脈はCuP(A1)脈の基部と明瞭な角度をなす;中胸側背板には決して刺毛を生じない;口肢は短く、せいぜい先端に数本の刺毛がある程度 ⑥
- ⑥a cua(cup)室はbm室とほぼ同じか短く、外側の角度は鈍角か直角;口器は短い Ocydromiinae
- ⑥b cua(cup)室はbm室とほぼ同じで、外側の角度は鋭角;口器はさまざま Hybotinae



Empis (Anacrostichus) sp.

2015/04/11

最近、オドリバエは見たらすぐに分かるようになってきました。きっと、触角や頭の形からなのでしょうね。さらに、写真に矢印を入れた脈があると、オドリバエ(*Empis*)属かなと思うようになりました。ちょっとした進歩ですね。実際に検索してみると、まさにオドリバエ(*Empis*)属になりました。さらに、この個体は左右の複眼が接していないので「離眼的」なのですが、実は♂です。♂ならば、「原色昆虫大図鑑III」か、Saigusa (1995)[1]に載っている 亜属の検索表が利用できます。

このオドリバエ、特徴的な腹端の構造をしています。交尾器の部分が急に下に折れ曲がっているのです。さらに、腹の背側がよく光っています。

こんなところを手がかりに検索すると、ツヤハラオドリバエ(*Anacrostichus*) 亜属らしいことが分かりました。そこで、さらに「大図鑑」の解説を読むと、この亜属にはルリツヤハラオドリバエなど少数の種が属していて、私の住んでいる大阪辺りでは、このルリツヤハラのほか、西南日本に棲息するという未記載の類似種がいるとのこと。この個体の特徴はルリツヤハラとよく一致しているのですが、前腿節腹面の棘の位置が淡色の部分に限られていることから未記載種の方に近い感じがします。合っているかどうかは分かりませんが、いずれにしても、かなり種まで近づけたので大変喜んでます。その後、「一寸のハエにも五分の大和魂・改」の記事によると、*Anacrostichus* 亜属は日本に10種程度いるそうです。この亜属では、♂の外部生殖器が腹の先から下側に曲がって下垂するような状態になり、クロツヤハラやルリツヤハラなどの1群では後脚の腿節が肥大して、腹面に棘を生じているのも特徴だとのこと。



キアシセスジオドリバエ？

Empis (Polyblepharis) compsogyne



2015/05/30

オドリバエ科の♂がいまいかなと探していたら、やっと見つかりました。この写真でもR4脈があることがちらっと見えますので、たぶん*Empis*属かなと狙いをつけて採集してきました。先ほど、三枝豊平氏の科研費報告書[1]を用いて、検索してみました。その結果、*Empis*属*Polyblepharis*亜属になりました。さらに、「一寸のハエにも五分の大和魂・改」には種への検索表が載っていたので、それを使ってみました。専門用語がよく分からないので確かではないのですが、何となく、*Empis (Polyblepharis) compsogyne*かなと思いました。

この種は「原色昆虫大図鑑III」にもキアシセスジオドリバエとして載っていました。右の写真は♂腹部末端の写真です。*Polyblepharis*亜属については、「大図鑑」に説明が載っています。それによると、「♂の第7・8腹節背板は前節背板に比べて短く、両背板、少なくとも第7腹節背板の背面はビロード状微毛で覆われて刺毛を欠き、第8腹節腹板はしばしば拡大し、その上に♂交尾器が乗るような形状になる。尾角葉と背板葉は先端が丸みを持つ単純な三角形の構造で、挿入器は複雑な湾曲を示し、特に先端が固有のS字型湾曲を示す。」とあります。挿入器についてははっきり分からないのですが、腹節の説明などはよく合っているようです。

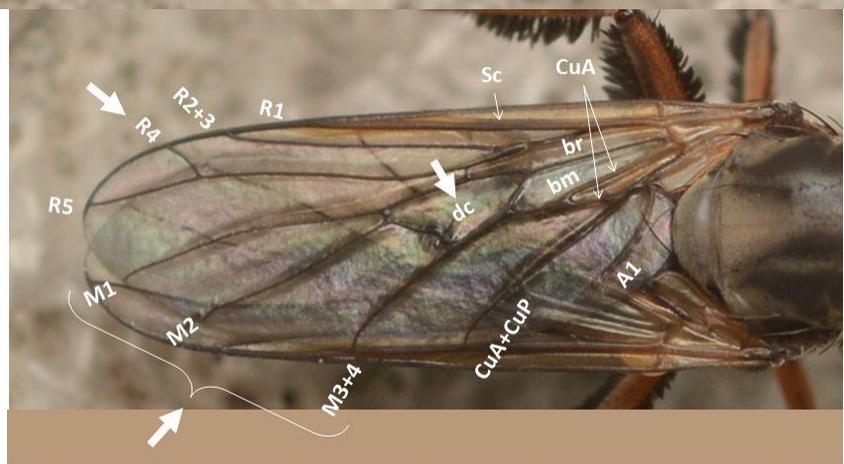




2016/03/22

これはオドリバエの♀です。三枝豊平氏の「日本産双翅目の図解検索システム (Family Empididae)」[1]を使って調べてみました。ポイントは、1) R4があり、R5から角度をもって分離していること、2) 中室があること、3) M脈が3本になることで、*Empis*属だと思います。

脚に生えている黒いものは変形した毛で♀に生えています。これについては一昨年に顕微鏡写真を撮っていました(こちらを御覧ください)。このときと同じ種かもしれません。そのときのブログを読むと*Polyblepharis*亜属かもというところで止まっていた。Empis属の亜属への検索表は文献[1]にも「原色昆虫大図鑑III」にも載っているのですが、残念ながら共にみ用でした。*Polyblepharis*亜属というのは「一寸のハエにも五分の大和魂・改」で画像を見ていてそう思っただけで根拠はありません。でも、亜属が合っているならば同じ掲示板に種への検索表が載っていました。その検索表はみでも♀でも使えます。ざっと検索してみると、*Empis* (*Polyblepharis*) *compsogynne*になりました。この種は「大図鑑」にも載っていて、キアシセスジオドリバエという和名が新称としてつけられていました。ということで前頁のみに対応する♀だろうと思っています。



Empis (Planempis) sp.

2014/05/02

先日捕まえたオドリバエ科のハエを実体顕微鏡で調べ、検索表を用いて属の検索を試みました。ハエは種類も多く、構造も複雑で、私にとっては分からないところだらけなのですが、勉強のつもりでやってみました。間違っているところも多いと思いますので、ご指摘いただければ幸いです。対象とするハエはこんなハエです。体長は11mm、大型のハエです。属への検索は、三枝豊平氏の科研費の報告書[1]に載っているオドリバエ科の図解検索システムを用いて調べることができます。この検索表には図が載っているので、大変わかり易くなっています。結局、*Empis* 属というところまでたどり着いたことになります。

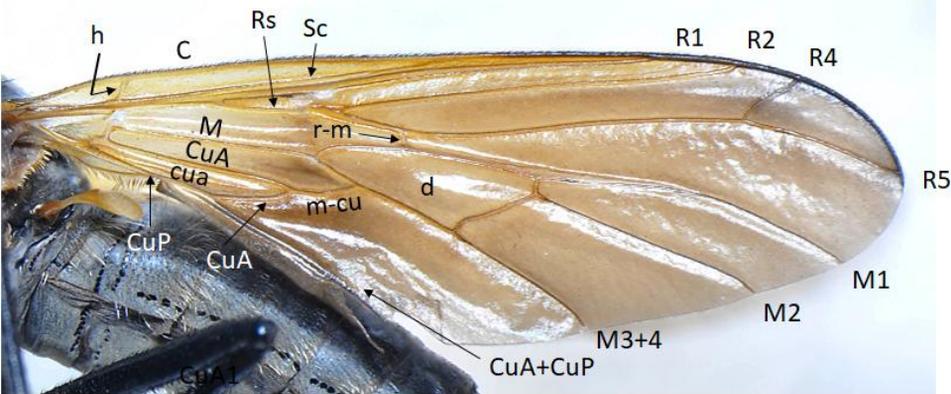


この個体だと思われる個体は手元に標本として置いてあったので、この図鑑を作るに当たって交尾器を調べてみました。その写真を載せました(本頁:側面、次頁:背面、後面)。この形状から亜属までの検索ができます。「オドリバエ科の検索と特徴」に各部の写真、次頁に調べた項目を載せていますが、検索の結果は*Planempis* 亜属になりました。

三枝氏の科研費報告書[1]に載っている検索表によると、*Empis*属に達するには次の6項目を調べる必要があります。

- ①前脚は通常の状態、捕獲脚に変形していない；②翅は中室を持つ；③翅の中室から生じる脈は3本、または中室は翅の後縁近くまで拡大する；④翅はR4脈を持つ；⑤口吻は長く、下方を向く；⑥翅のR4脈はその基部から先端に至るまで、R5脈から大きな角度で離反する、そのためにR4脈はほぼ直線状である；Sc脈は先端が消失する；平均棍基部の前方の胸部側板に毛塊を生じる

*Empis*属はR4脈があり、それが大きな角度で直線的に走っていることを確認することでだいたい確かめられます。



さらに、亜属の*Planempis*亜属に至る検索は次のような過程で進みます。

- ①口吻の唇弁は太く、短い；②後頭部は長く伸びるように発達しない；③♂の交尾器より前の腹節腹板は変形しないか、大型になり、前者の場合は交尾器は腹端に後方ないし後背方を向いて位置し、後者の場合は交尾器は拡大した第8腹板の上に持ち上げられるようになる；④♂交尾器の背板葉は尾角突起より一般に短い；しばしば尾角突起は複雑に変形し、多くの種ではその背面は拡大し、平滑になり中央に小孔を囲む

前頁の下に示した交尾器の写真からこの内容も確かめられます。写真左下は背面から、右下は後方から撮影したものです。「日本昆虫目録第8巻」によると、*Planempis*亜属には22種+5未記載種が載せられ、これらはいくつかの種群に分けられているようで、種まではまだ先が長そうです。



ヤマトアシボソウルワシオドリバエ
Rhamphomyia (Calorhamphomyia) nipponensis



2017/05/05

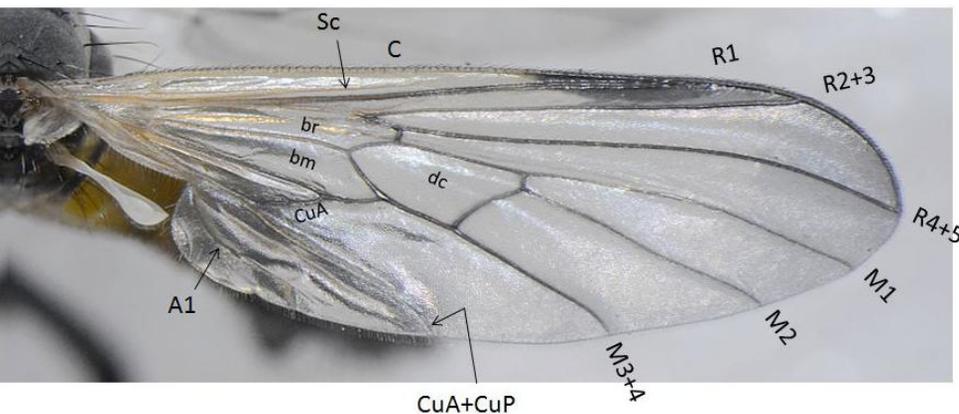
この間から気になっているオドリバエがまたいました。上の写真は♀なのですが、5月7日に♂2匹を採集したので、交尾器を調べてみると、「大図鑑」に載っているヤマトアシボソウルワシオドリバエの写真に非常によく似ていることが分かりました。しかし、この種の含まれる*Rhamphomyia*属はいくつかの亜属に分かれるのですが、その亜属の検索表がありません。その先の種の検索表は「大図鑑」に載っているなので、何とか、亜属を調べたいと思って、この種が含まれる*Calorhamphomyia*亜属の一般的な性質と比較したのですが、どうもはっきりしなくて弱っています。種を確認するにはまだまだ先が長いのですが、とりあえず、次頁にそのあらましを載せておきます。



三枝氏の科研費報告書[1]に載っている検索表によると、*Ramphomyia*属に達するには次の9項目を調べる必要があります。

- ①前脚は通常の状態、捕獲脚に変形していない;②翅は中室を持つ;③翅の中室から生じる脈は3本、または中室は翅の後縁近くまで拡大する;④翅はR4脈を欠く;⑤翅の基室は通常の高さ;
- ⑥口吻は長い;⑦後脚は通常の状態、捕獲脚に変形していない;⑧翅の翅腋葉はよく発達する;CuA室はこれを閉ざすCuA脈が翅の基部に向かって回帰するので、本室の後端は全くまたはほとんど角張らない;⑨翅の亜前縁脈は先端が退化するために、翅の前縁に達しない;平均棍基部の前方に刺毛塊を生じる

前脚と後脚が捕獲脚でなければ、ほとんど項目は次の翅脈から調べることができます。なお、原文で用いられている翅脈の名称を「大図鑑」に合わせるため、Cu1→CuAに直しました。



問題はここから先の亜属の検索表がないことです。この個体は「大図鑑」の交尾器の写真と比較して、*Calorhamphomyia*亜属のヤマトアシボソウルワシオドリバエ *nipponensis* かもと推定されたのですが、ここから先、どうやって調べたらよいのか分かりません。

結局、「大図鑑」に載っている*Calorhamphomyia*亜属の共通特徴と比較することにしました。列挙すると次のようになります。

- ①多様性がある;②触角は長め;③中剛毛は2列、稀に消失;④背中剛毛は1列;⑤翅の中室は短く、横脈は斜め;⑥CuA+CuP脈は翅縁に達する;⑦脚は細長く、後腿節は多くは前腹剛毛列を具え、後腹剛毛列は発達が悪いが、これを欠く;⑧♂の第7腹節後縁に1対の可動突起を生じる;⑨♂交尾器の尾角葉は単純、一般に背板葉末端を越えない;⑩背板葉はほぼ矩形、その後背角は鈍角で*Orientomyia*の種のような前背方への伸長を起こさない

詳細はブログあるいは別冊に書きましたが、必ずしもすべてが確かめられたわけではありません。特に、♂第7腹節後縁にある突起が可動なのかどうか分かりませんでした。

亜属が分かると、種の検索表は「大図鑑」に載っていました。次の3項目を調べることにより標題の種であることが確かめられます。

- ⑦後腿節は広範に暗褐色ないし黒色;⑧小型種;翅長9mm未満;⑨後脛節背・腹両面の毛は脛節幅より短く、疎らで、背面にはこれより長い若干数の剛毛が目立つ;翼状突起の先端は2個のかなり小さい突起で終わる

オドリバエ、なかなか難しいです。

ケズネイミヤクオドリバエ？

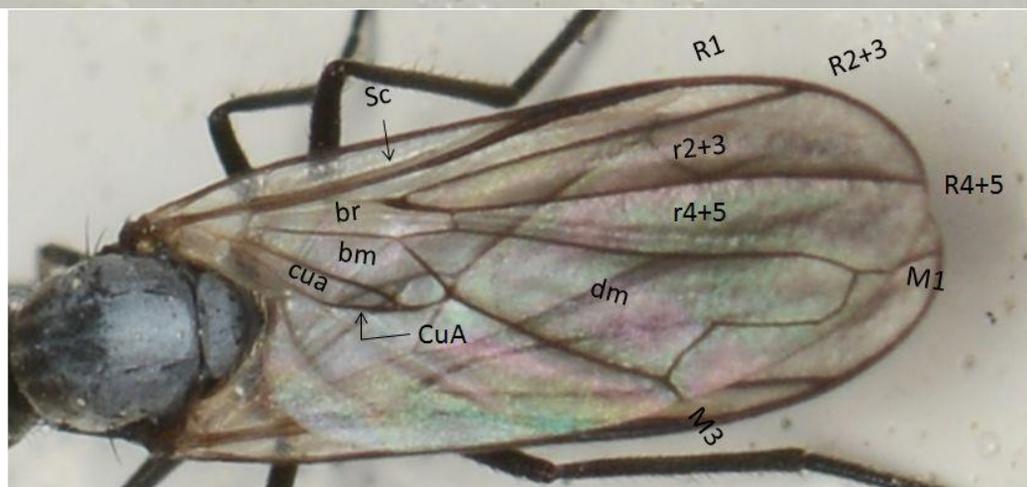
Rhamphomyia (Megacyttarus) brunneostriata



雰囲氣的にオドリバエだなんて思って何気なく撮ったのですが、後で写真を見ると、中室辺りの翅脈が異様です。ちょっと翅脈に名前を付けてみました(右写真参照)。

M3と書いたところはM3+4と書くべきかな。いずれにしても、M2にあたる部分がなくなって、横脈がぐにゃっと曲がっています。

でも、とりあえず、オドリバエ科だと思って検索をしました。オドリバエについては、三枝豊平氏の科研費の報告書[1]を見ると詳しい説明と検索表が載っています。検索してみると、まず間違いなく*Rhamphomyia*属になります。それでたぶん、*Rhamphomyia*属だろうと思って、画像検索でこんな変わった翅脈をもつ個体を探してみました。[Bugguide](#)というサイトで似たような翅脈の写真を見つけました。*Rhamphomyia*属*Megacyttarus*亜属でした。それで、今度はこの亜属で検索してみると、♀がこういう変わった翅脈をしているようです。「大図鑑」を見ると、「(*Megacyttarus*亜属の)♀の翅の中室が拡大したり横脈を失って開く。」とありました。たぶん、それで間違いないでしょう。



*Rhamphomyia*属は亜属の検索表がないので、「大図鑑」の種の検索表が使いません。でも、今回は亜属がだいたい分かったのでひょっとしたら種の検索ができるかもしれません。♀に限定するとおそらく次のような手順で検索が進むと思われます。

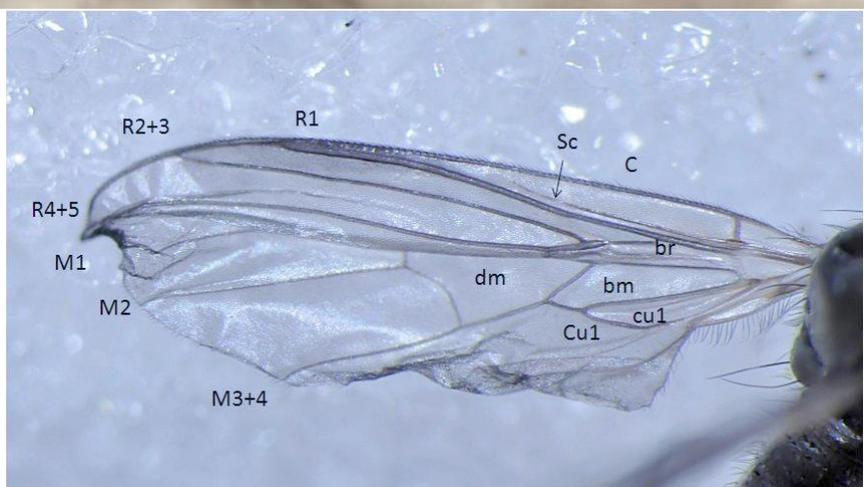
- ①a 顔面に刺毛を生じる
 - ②中室(dm)は閉ざされる
 - ③中室(dm)は翅縁近くまで拡大する
 - ④M1とM3脈は短く、それらの長さはR4+5脈端とM1脈端の間隔の1/2以下
 - ⑤a 翅は端半部が灰色を帯び、翅の亜端部のr2+3室、r4+5室、中室(dm)端に現れる暗条は小型、不明瞭;翅のごく基部が白色(本州・九州) *R. brunneostriata*
 - ⑤b 翅は広く白色、翅の亜端部のr2+3室、r4+5室、中室(dm)端に現れる暗条は淡褐色で明瞭;r4+5室の斑紋はR4+5脈長の1/2長 *R. trimaculata*
- ①b 顔面に刺毛を欠く
 - ⑥中室(dm)横脈は弱いS字型湾曲を示す;M2脈はごく短く存在し、この部分で横脈は折れ曲がる;翅は白色部を欠き、翅脈はすべて暗褐色ないし黒褐色 *R. geisha*

顔面の刺毛の有無が分からないので、二つの道を進むこととなります。ただ、⑥の*geisha*は中室の横脈の形状やM2脈があるところなどが少し違うようです。それで、*brunneostriata*と*trimaculata*が残るのですが、検索表に書かれている暗条がはっきり見えません。また、翅の基部の白色というのがよく分かりません。それで、はっきりしないのですが、最普通種と思われる*Rhamphomyia (Megacyttarus) brunneostriata*(ケズネイマクオドリバエ)♀が今のところ第1候補になっています。

Rhamphomyia sp.

2015/02/06

体長5mmほどの小さなハエで、2～3月によく見かけます。今回は採集してきて検索表を使って検索してみました。その結果、オドリバエ科ホソオドリバエ属 (*Rhamphomyia*) であることが分かりました。種まで調べるには交尾器を調べなければいけないというので、採集した個体で少し撮影をしておきました。毒瓶にいれておいたら翅がグチャグチャになってしまったので、あまりお見せしたくない写真なのですが・・・(写真右)。



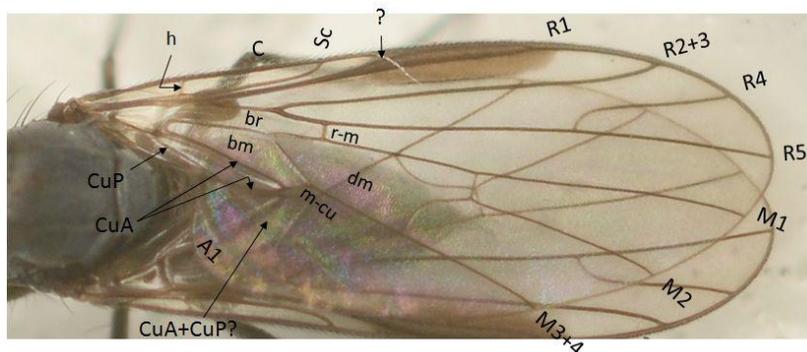
写真Aは横から写したものです。脚がかなり長いですね、それに嘴のような口が見えます。Bは頭部の拡大です。大きな複眼ですね。ほとんど頭全体を覆っています。それに変わった触角です。前頁の写真はくちやくちやになった翅です。これからでも、R4+5脈が先端で2つに分かれていないこと、Sc脈が途中で消えていること、CuA脈が途中で戻っていることなどが何とか読み取れます。Cは横から見た腹部の写真です。腹部末端が変わった形をしていますね。細長い針金のようなものは挿入器というようです。♂の特徴ですね。この部分をもう少し拡大したのがDです。これは生物顕微鏡の対物鏡10倍で撮影したものです。交尾器の形が分かれると亜属がだいたい分かるそうなのですが、今のところ私には分かりません。ということで、将来、もう少し分かった時のために載せておきます。



Hilara (Hirara) sp.?

2016/12/29

翅脈からオドリバエではないかと思ったのですが、よく見ると、翅脈が結構変わっています。そこで、翅脈に名前を付けてみました。名称は「大図鑑」を参考にしました。?マークにしたのは、こんなところに脈があるのはおかしいなと思ったからで、また、CuA+CuPはほとんど脈らしい脈がなくて折りにしか見えなかったからです。



翅脈で変わっているなと思ったのは、1) Sc脈が急に曲がって前縁に達しているところ(通常のオドリバエでは前縁に平行になって先端が不明瞭になっていることが多い)、2) R4脈がR5脈と大きな角度で分岐した後に急に曲がってR5脈にやや平行に近く走っている(通常は、分岐した後、そのまますぐ伸びていることが多い)、それに、3) M2脈とM3+4脈をつなぐ脈が曲がっているところ、4) CuA+CuP脈が不明瞭になっているところなどです。こんなところに注目して、MNDを見てみると、*Hilara*属の翅脈が似ていることに気が付きました。それで、三枝氏の報告書[1]の中にある検索表で確かめてみました。一か所、「口吻は長く下方を向く」というのが、この写真では確かめられません。でも、もしこれが合っているとすれば、*Hilara*属*Hilara*亜属に到達します。

いくつかまだ名前が分かっていないオドリバエの仲間の写真を載せておきます。いずれ名前がわかることを期待しながら・・・。



Empis sp. ♀

2016/05/31



Rhamphomyia sp. ♀

2015/03.27



Rhamphomyia sp. ♀

2017/02/14



Rhamphomyia sp. ♀

2017/03/30



2015/03/26



2015/03/26